



R.Kaji

THE KOKURA JUMP STAKES

第27回 小倉ジャンプステークス (J・GⅢ)

1着 賞 30,000,000円 2着 12,000,000円 3着 7,500,000円 4着 4,500,000円 5着 3,000,000円
付加賞 490,000円 140,000円 70,000円



レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

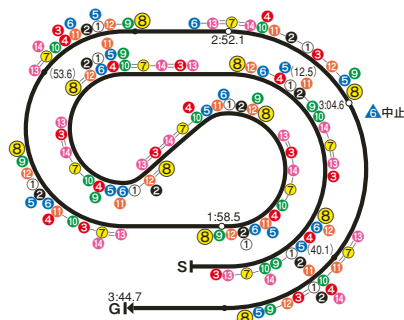
4歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 4歳59^{kg}、5歳以上60^{kg}、牝馬2^{kg}減、J・GⅠ競走1着馬2^{kg}増、J・GⅡ競走1着馬1^{kg}増

2025.2.15 小倉 曇・良 芝3390m (遅含)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 1ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師
1	⑧	スマイルスルー	牡	5	60	高田 潤	3:44.7	1-1-1-1	13.3	524(+6)	1.6①	斉藤崇史(栗東)
2	⑤	サイド	騾	6	60	小坂忠士	½	5-4-2-2	13.3	496(-6)	15.5⑤	角田晃一(栗東)
3	③	サベラヴィ	牡	6	60	江田勇亮	4	2-2-2-3	13.3	494(+4)	18.5⑥	南田美知雄(美浦)
4	③	アランデル	騾	7	60	上野 翔	3	11-9-5-5	13.3	542(+6)	13.0④	大竹正博(美浦)
5	⑫	ピーターサイト	牡	5	60	大江原圭	1½	3-3-4-4	13.3	480(+6)	181.3⑬	村田一誠(美浦)
6	⑫	バーリーブラック	牡	5	60	草野太郎	1¼	12-12-11-8	13.4	480(+2)	85.0⑪	伊坂重信(美浦)
7	⑩	ブラックボイス	牡	6	60	石神深一	3½	5-6-7-6	13.4	518(+6)	6.3③	宮田敬介(美浦)
8	⑩	ドゥラモンド	牡	7	60	森 一馬	1½	10-11-9-8	13.4	502(+8)	42.7⑨	手塚貴久(美浦)
9	④	ティエムタツマキ	牡	7	60	黒岩 悠	アタマ	8-9-9-8	13.4	508(-4)	36.0⑨	武 英智(栗東)
10	⑦	ザレストノーウェア	牡	7	60	伴 啓太	7	12-12-12-12	13.5	476(+2)	136.9⑫	新開幸一(美浦)
11	①	アサクサゲンキ	騾	10	60	小牧加矢太	1¼	4-4-6-6	13.5	478(+2)	6.1②	音無秀孝(栗東)
12	①	エンデミオン	牡	8	60	小野寺祐太	大差	8-7-8-11	13.7	470(+10)	34.1⑦	清水久詞(栗東)
13	⑬	サクラトップラン	牝	6	58	田村太雅	大差	14-14-13-13	13.8	472(-4)	311.8⑭	中尾秀正(栗東)
中止	⑥	ナリノモンターニュ	牡	8	60	五十嵐雄祐		7-7-14		524(+6)	62.6⑩	上原博之(美浦)

単勝⑧1160円(1¼)、複勝⑧110円(1¼)、⑤280円(4¼)、③300円(6¼)、枠連④-⑤850円(5¼)
馬連⑤-⑧1,080円(4¼)、ワイド⑤-⑧480円(3¼)、⑧-⑨480円(4¼)、⑤-⑨1,940円(21¼)
馬単⑤-⑧1,340円(5¼)、3連複⑤-⑧-③3,860円(12¼)、3連単⑤-⑧-③10,560円(29¼)



上り1マイル: 1:46.2 上り: 800^m 52.6^{sec} 600^m 40.1^{sec}

アラカルト

- ・高田潤騎手はメイショウブシドウで制した14年に続く小倉ジャンプS7勝目(小倉サマージャンプを含む。以下、同)。
- ・JRA重賞は通算24勝目
- ・斉藤崇史調教師は小倉ジャンプS初勝利。JRA重賞は通算23勝目
- ・ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算36勝目
- ・5歳馬の勝利は18年ヨカグラに続く通算6勝目
- ・ナリノモンターニュは競走中に疾病(鼻出血)を発症したため3周目3コーナー通過後に競走中止

スマイルスルー Smile Through

牡 鹿毛 2020.4.15生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・吉田勝己氏 栗東・斉藤崇史厩舎
馬名意味・笑顔を決やさない

サンデースマイルⅡGB系 F1-s

ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	トニービンIRE ダイナカル
スマイルシャワー 鹿毛 2011	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	サンデースマイルⅡGB 鹿毛 2003	Sunday Silence Sensation

5代までのインブリード：Nureyev S5×M5 Hail to Reason M5×M5

INTERVIEW

伊藤隆行 厩舎長（ノーザンファーム早来）

確実な成長がうかがえます

このレースへ臨むために1週前から小倉競馬場に滞在しましたが、鞍上を務めてくれた高田潤騎手が付きっきりで調整を行ってくれました。その関係性が勝利という形で証明されたと思っています。連勝中のレース内容を見ても、ハードラーとしての確実な成長がうかがえます。今後の目標はJ・GⅠ制覇となるのですが、まずは無事に走りきってもらいたいです。



T.Mori

軽快なダッシュで飛び出したスマイルスルーと高田潤騎手のコンビは最初の生け垣障害を飛越後、逆回りの4コーナーで主導権を奪取。向正面から徐々にリードを広げ、単騎の逃げに持ち込む。昨年冬の小倉開催でオープン戦、春麗ジャンプSを連勝した実績を持ち、3番人気の支持を集めたフラックボイスはタスキコースの手前で2番手に進出したものの、順回りのスタンド前で中国に後退。小倉の障害戦で4勝を記録している10歳の古豪、2番人気のアサクサゲンキがこれを横目に好位へ上がり、追撃態勢を整えた。

快調に風を切り、向正面に差し掛かったスマイルスルーは、昨年の阪神ジャンプSの覇者サベラヴィにプレッシャーをかけられても先手を譲らず、3コーナーから再びリードを広げにかかると、突き放されたサベラヴィにかわってサイドが2番手に浮上。直線の最終障害を飛越後は2頭の一騎打ちとなったが、迫られてもうひと伸びしたスマイルスルーが相手の反撃を抑え込み、4連勝のゴールを駆け抜けた。

昨年1月に障害へ転向した本馬は、入障4戦目に挙げた初勝利を境に本格化。続く清秋ジャンプSは従来のレコードを3秒0も塗り替えて逃げ切り、重賞初挑戦の京都ジャンプSでは2着のアサクサゲンキに8馬身差をつける圧勝劇を演じた。いくつか低い飛越があったこの日も、結果的には、着差以上の強さを感ぜさせる内容で重賞を連勝。ニシノデジの引退により空位となっている障害界の王座へ、このまま一気に駆け上がるか。

父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首20戦8勝(クイーンエリザベスⅡ世C・香^{G1}、アメリカジョッキークラブC^{GⅡ}、日経新春杯^{GⅡ}、金鯱賞^{GⅡ}、鳴尾記念^{GⅢ}、宝塚記念^{GⅠ}2着、ジャパンC^{GⅠ}3着)、13年から供用〔代表産駒〕**キセキ**(菊花賞^{GⅠ})、**メールドグラス**(コフィールドC・豪^{GⅠ})、**ソウルラッシュ**(マイルチャンピオンシップ^{GⅠ})、**ドルチェモア**(朝日杯フューチュリティS^{GⅠ})、**マスコティエーヴァ**(阪神牝馬S^{GⅡ})、**タンビュライト**(京都記念^{GⅡ})、**リオンリオン**(青葉賞^{GⅢ})、**ワンドフルタウン**(青葉賞^{GⅢ})、**ムイトオブリガード**(アルゼンチン共和国杯^{GⅡ})、**エヒト**(小倉記念^{GⅢ})、**グロンディオーズ**(ダイヤモンドS^{GⅢ})、**ヘデントール**(ダイヤモンドS^{GⅢ})、他に重賞勝ち馬多数

母スマイルシャワー

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央22戦3勝
スマイルライン(18 牡父ルーラーシップ)中央8戦1勝
アエリーゾ(19 牝父ドレフォンUSA)中央24戦1勝

スマイルスルー 本馬(20 牡父ルーラーシップ)中央9戦1勝、障害7戦4勝
― (小倉ジャンプS・J・^{GⅢ}、京都ジャンプS・J・^{GⅢ})獲得総賞金104,594,000円
(23 牝父ナダルUSA)
(24 牡父ビッグアーサー)
※21、22(流産)

祖母サンデースマイルⅡGB

英1勝。09年輸入、23年死亡

フルーキー(10 牡父Redoute's Choice)持込 中央7勝(チャレンジC^{GⅢ}、ポートアイランドS[○]、清水S、甲東特別、野分特別、タイランドC、エプソムC^{GⅢ}2着、新潟大賞典^{GⅢ}2着、チャレンジC^{GⅢ}2着、中山金杯^{GⅢ}3着)
スマイルシャワー(11 前出)
スマイルミューティア(12 牝父チチカステナングFR)中央2勝
シーブリースラブ(13 牝父カジノドライヴUSA)中央1勝、地方0勝、トーセンジェイク(黒潮菊花賞)の母
ハッシュタグ(14 牡父クロフネUSA)中央1勝、地方5勝
ルガルカルム(16 牝父ロードカナロア)中央2勝(アネモネS・L、クロッカスS・L2着)
マンオブスピリット(17 驢父ルーラーシップ)中央2勝(つばき賞、京都新聞杯^{GⅡ}2着)、地方0勝
ホウオウサンデー(18 牡父キングカメハメハ)中央2勝 ㊤
ブリスキー(20 驢父ハービンジャーGB)中央1勝 ㊤

4連勝で障害界の王座へ一歩近づく

徐々にリードを広げ、単騎の逃げに持ち込む。昨年冬の小倉開催でオープン戦、春麗ジャンプSを連勝した実績を持ち、3番人気の支持を集めたフラックボイスはタスキコースの手前で2番手に進出したものの、順回りのスタンド前で中国に後退。小倉の障害戦で4勝を記録している10歳の古豪、2番人気のアサクサゲンキがこれを横目に好位へ上がり、追撃態勢を整えた。

快調に風を切り、向正面に差し掛かったスマイルスルーは、昨年の阪神ジャンプSの覇者サベラヴィにプレッシャーをかけられても先手を譲らず、3コーナーから再びリードを広げにかかると、突き放されたサベラヴィにかわってサイドが2番手に浮上。直線の最終障害を飛越後は2頭の一騎打ちとなったが、迫られてもうひと伸びしたスマイルスルーが相手の反撃を抑え込み、4連勝のゴールを駆け抜けた。